

第1回総合戦略推進アドバイザー懇談会議事録

日程	令和7年9月2日(火)～9月18日(木)
場所	美濃加茂市役所及び訪問先
委員	【産】(株)フジイ 代表取締役 金森 薫氏 【労】(株)濃飛葬祭 代表取締役 鈴木 哲馬氏 【学】中部学院大学短期大学部幼児教育学科 教授 杉山 祐子氏 【学】元可茂教育事務所所長・元太田小学校校長 三尾 不二男氏 【学】元加茂高等学校校長 平野 弘氏 【金】東濃信用金庫美濃加茂支店 支店長 佐藤 幸一氏 【言】(有)コニー 代表取締役 伊佐治 栄子氏 【言】みのかもフリーパーパー歩好里人 代表 安藤 摩里氏 【国】のぞみ教室 主任指導員 藤木 燦斗良 春美氏
事務局	経営企画部 企画課

○第2期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績と総括について

アドバイザーと面談し、第2期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和6年度の実績と総括に関して意見をいただいた。

【アドバイザーからの意見】

- ・少子化に関しては、子育ての大変さばかりがピックアップされていると感じる。
- ・少子化に関しては、物価が上がり、実質賃金もマイナスとなっていて、経済的な理由から第2子、第3子を産む考えに踏み切れない。また、核家族化や共働き世帯が増加していると思うが、第2子、第3子の保育料無料、手厚いフォロー、さらには女性が働きやすくなると少子化の流れは止まらないと思う。経済的に余裕が生まれることで、第2子、第3子へとつながってくる。
- ・子育ての大変さや不安ばかりにスポットがあてられているが、お金だけではなく支援も必要である。精神的な部分でのケアや子育て世代が集う場所の提供など、市民へ手が差し伸べられると良い。
- ・働くために預けるのではなく、預けるために働くということになっていて、子育て世代が仕事で忙しすぎる。その影響で、乳幼児学級の参加者が減少して未満児保育が増えている。
- ・企業では、女性社員の活躍が多く見られ、今は当たり前女性が活躍する時代になっている。
- ・第2期総合戦略で女性活躍にスポットを当てたことはとても良かった。
- ・最近の高校生は女子生徒の動きが活発になってきていると感じ、体育祭や生徒会活動でも女子生徒が自発的に手を挙げるなど、女性活躍が当たり前になってきている。
- ・今後さらに女性活躍を推進すると、地元への定着率の向上が期待できる。
- ・美濃加茂市は事業者意欲も高く、活気のあるまちであると感じている。商工会議所の会員数も増加しており、事業者間のつながりも強い。
- ・第2期総合戦略の成果を市民と市職員が誇りに思うべきであり、第3期総合戦略も自信を持って進めるべきである。

- ・東海環状自動車道西回りルートが開通し、人の交流が増えた。市の魅力向上にはショート動画やSNSを活用するのも良い手段である。
- ・子どもたちに地元への愛着を高め、「感覚的に良い」と感じてもらえる施策が必要である。
- ・現在、どこの企業も人手不足である。最低賃金が上がっても扶養から外れないように働くため勤務時間が短縮され、企業側には痛手となっている。
- ・企業は事業の継続や拡張の面で人材確保に苦労している。また、外国人労働者が帰国してしまう場合もあり、対応が課題となっている。
- ・第2期総合戦略は新型コロナウイルス感染症から始まり、市民生活の大きな変化を与え、いろいろな経験もしてきた。今後の事業は10年、20年先を見据えたものにすべきである。
- ・新型コロナウイルス感染症を経て、オンライン会議が増えるなど生活スタイルが変化した。
- ・新型コロナウイルス感染症で様々な業種がデジタル活用を進めるようになった。
- ・可児市には外国人向けの交流拠点があり、多文化共生を進めている。美濃加茂市にも外国人が気軽に相談できる場所が必要だと考える。
- ・美濃加茂市は多文化共生の分野で長年の実績と経験があり、他の自治体にはない強みを持っている。
- ・美濃加茂市は災害が少ないと感じるが、地震や水害などの安全面についてデータを収集し、市の強みとして推しても良いのではないかな。